

## 特別研修

### 月例研究会 議事録 ( 1 月 )

2010 年度第 14 回

報告題名 ジャワ農村における所得源の多様化について —東ジャワ州マラン県ワジャ群スコリロ村を事例として—	
報告者 神浦友樹	日時 1月27日 午後3時～
(所属分野) 国際開発学分野	場所 第2講義室
座長 水木	議事録担当者 宮本
出席者 長谷部、木谷、安江、小山田、両角、米澤、米倉、冬木、伊藤、石井、高篠、阿部、菅井、韓、スチン、八木、宮本、神浦、福田、水木、宮里、渡邊、易、威、王、金(詰)、滝田、タンボウニ、堀、山口、林、泉井、Intan、Sudirman、Lies、金(銀)、黄、小原、片山、佐々木(彩)、澤田、千葉、藤、八鍬	
報告要旨 発展途上国の農村において、就業の多様化は貧困を脱出するための有効な手段であると考えられている。特に非農業部門への就業が貧困脱出の鍵であると結論づけている既存研究が多く存在する。 人口密度が高く一人当たり農地面積が小さいジャワ農村においても、雇用吸収の増加が期待できない農業部門より非農業部門の就業が貧困削減に重要であると考えられる。ジャワ農村では従来、農業労働の集約度が他の国と比べて高いことが特徴的であり、土地を持たない農村住民の多くが農業雇用労働に従事してきた。しかし近年では、村民の教育レベルの向上や都市部における労働需要の増加に伴い、非農業部門で雇用される村民が多く存在する。 本報告では、2010年8月・11月に行われたインドネシアのスコリロ村における農村調査を元に、農村世帯の就業の多様化と貧困の関係について検討する。	

## 質疑・応答

高篠：世帯所得の計量分析結果で、男女で違いがある。女性の係数が有意に高い。分析に用いた人数は、労働力としてカウントできる人数か？また、女性の方が非農業就業機会が多いといった実態はあるか？

神浦：送金部門では、女性の海外からの送金が多い。それが有意差が出た要因で、非農業就業機会に差はないと思う。

米倉：就業部門の分類は、所得源による分類と考えて良いか？例えば、送金部門は不労所得あるいは一種の移転所得と言えるが。それから、部門別に集計値を調整して所得を集計して分析しているが、各項目は、何を分析する目的で設定したのか？各就業部門の、各活動部門からの、当該世帯当たりの年間所得を分析する為と考えて良いか？世帯間の違いの分析ではなく、世帯の分析と所得ソースの分析との関係が見えない。また、世帯所得の計量分析で年齢の二乗を説明変数としているのは何故か？普通、農業経済学で使われる「農家」は、ここでは何に相当するのか？今回の報告で言われている「農業部門」と完全に一致していないということによいか？

神浦：就業部門の中で、送金部門だけ例外的な扱い。移住労働あるいは出稼ぎが、就労先の一つとして選択肢に数えられるなら、送金部門を一つの部門として扱うべきだと考えた。

米倉：移住労働者や出稼ぎ労働者の人数は世帯のメンバーに含まれているか？

神浦：含めていない。

米倉：含めないとまずいのではないか。ただし、季節労働的あるいは周期的に、週一回家に帰ってくるといった場合どうするか、といった整理も必要。世帯の定義、世帯メンバーの定義とリンクする。

神浦：世帯と個人、どちらを基準に考えるかで、各項目の意味合いが違ってくる。個人レベルで考えた場合、農業部門への参加は個人の能力にあまり関係なく、実際、土地の売買や貸借を行うことは難しい。農業部門は自ら選択して就く部門なのか疑問に思う。一方で、出稼ぎの場合、個人の能力に基づいて就業を選択することが可能なので、世帯と個人で就業部門を変えて分析するのも一つの方法かと思う。年齢の二乗を説明変数としたことについて。一般的に、年間所得と年齢は非線形関係。ある年齢までは年齢を重ねるにつれて年間所得も上昇するが、以降は年間所得が下がっていく。今回は逆の結果が出てしまった。

長谷部：所得源の多様化は、巧く指標化できないのか？数でとろうとしたのか？ウエイトが同じ項目を単純に足して増加といえるのか？

神浦：数で表す方法は、多様化の指標の一つ。

長谷部：多様化の程度をどうすれば把握できるのかが分からないと、示された結果が、どの程度多様化を説明したことになるのか判断できない。

神浦：題目では「所得源の多様化」と書いていて、就業部門にいくつも参加していることを踏まえて書いたのだが、結果としては非農業部門への参加、不参加が比較されているので若干まずかったかと思う。

長谷部：当初の目的とは違うよね？

神浦：そうですね。

両角：就業の多様化を、どう貧困問題の解決にどう結び付けていくのか？構想を聞かせて。

神浦：非農業部門への参加が農村部の所得を上げる為に必要。さらに、非農業部門への参加には教育年数が関わってくるので、教育制度の充実を図る必要があるという結論。過去の研究では所得格差が及ぼす影響についての分析が多いが、修論では所得のみ扱う。

長谷部：主要な所得源でどう違うか、を分析することは可能？

神浦：できる。少し手間はかかるが。現在、やっている。